



南の躍動

令和6年度 第3号

奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育の推進

大島教育事務所 令和6年11月21日



大島地区の「学校DX」

大島教育事務所 指導課長 平川 貴之
「豊かな自然があり、保護者・地域もあたたかく、何より子供たちが純粋で素直で、人懐っこくて、ここに来てよかったと思っています。」と、本地区へ転勤してきた先生方から話を聞く機会がありました。子供たちのよさを見出し、やりがいや喜びにつなげている姿勢に頭が下がりました。

さて、デジタル技術の進歩により、我々の生活は変わってきました。子供たちを取り巻く教育の世界も、影響を受けないわけがありません。そのような中で、教育改革の一つとして出てきたのが学校DXです。学校DXとは、コンピュータやインターネット等の活用の推進だけではなく、単なるデジタル化でもありません。学校自体が社会の変化に適切に対応できるように、より良く変化することです。本地区のどの学校でも、これからの学校教育のあり方を見据え、具体的に取り組んでいます。

9月、盛山前文部科学大臣が来島されました。「自然の中で伸び伸びと成長できる豊かな環境があり、デジタルを活用して少人数のデメリットがなく勉強できている。」と話されました。離れた教室をつなぎ授業等を行う「メタバース」や「遠隔合同授業」の実践の素晴らしさを評価していただきました。本地区には自然遺産である豊かな自然、島唄・島口等の素晴らしい文化、人との絆を大切にする「結いの心」などの「奄美のよさ」があり、それはまさに「豊かな環境」と言えます。今後デジタルの世界が広がり変化する学校の中で、この「豊かな環境」を所謂リアルな部分として益々重視し、大切に生かしていかなければならないと考えます。

「奄美のよさ」と学校DXが目指すところが上手く融合することで、大島教育事務所が掲げる「奄美のよさを生かした魅力・活力ある教育」が、更に推進できると期待します。

冒頭に申し上げた子供たちが、この素晴らしい大島地区を誇りに思い、時代に適切に対応できる力も兼ね備え、デジタルとリアルが融合した未来を豊かに生き抜く人に育つことを願って、今後も大島事務所として大島地区の教育を応援してまいります。



前文科大臣の視察(徳之島町立花徳小学校)

服務規律の厳正確保 ～生徒指導における「毅然とした対応」とは？～

生徒指導における「毅然とした対応」とは？ 生徒指導提要では以下の取組が挙げられています。

- (1) 日常的な指導の中で、**児童生徒理解の深化**、**教職員と児童生徒との信頼関係の構築**、**全教職員が一体となった教育相談やカウンセリング**を実施すること。
- (2) 学校は、暴力行為等に関する**きまりなど**を保護者や地域住民等に**公表し**、**理解と協力を得るよう努め**、**全教職員が**これに基づいた指導を行うこと。
- (3) 特に校内での傷害事件など**犯罪行為の可能性**がある場合には、**学校だけで抱え込むことなく**、直ちに警察に通報し、**協力を得て**対応すること。
(生徒指導提要pp.142～143から抜粋)

体罰や不適切な指導から無縁になるためにも、正しい理解と適切な実践を継続していきたいものです。

魅力ある学校づくり(分かる授業)

「分かる授業」づくりをすることは、魅力ある学校づくりに欠かせないものです。そのために、児童生徒の実態や学習状況を捉え、予め手立てを準備し、児童生徒に学びを選択・決定させるなど、「学習者主体の授業づくり」をすることが必要です。「できることから、少しずつ」を合い言葉に、日々の授業改善・授業充実を図りましょう。

学校訪問を通して

児童生徒に寄り添い、熱心に学習指導を行う先生方の姿が多く見られました。授業に向かう教師の情熱が、良い授業につながるのだと思います。今年度の学校訪問、全て終了しました。ありがとうございました。



自己実現をサポートするキャリア教育(進路指導)の充実

○ キャリア・パスポートの活用・工夫・改善

キャリア教育の定義は、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促すこと」です。子供一人一人が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりできるように、キャリア・パスポートを効果的に活用する必要があります。キャリア発達を促すために、次年度の教育課程編成に向け、本年度の活用状況を見直し、内容等の工夫・改善を図り、学校種間での円滑な連携や接続につなげてほしいです。そのことが、社会の中で生きていくために必要不可欠な能力を育むことにつながります。

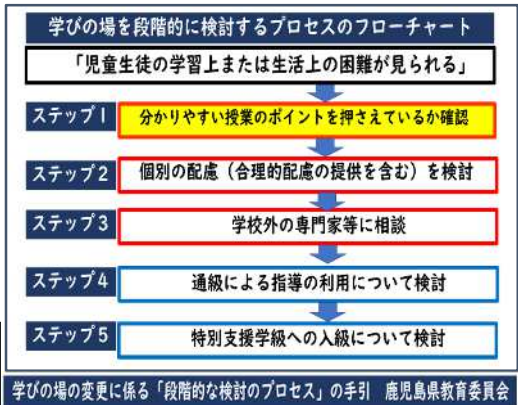
○ 入試業務のミスをなくす組織的チェック体制の確立と運用(入学者選抜実施要項 R6・10・11付公文)

募集要項や実施要項等を熟読し、ミスは必ずあるというクリティカルシンキング(批判的思考)で、期間を空けて複数回チェックを行ってください。下記については、特に最新の注意を払ってください。→締め切り後の受理はされません。

- ・ 令和7年度入学者選抜から新たに実施される「推薦入学者選抜(自己推薦)」「出願(学科併願)」
- ・ 「学区外高等学校入学志願許可申請」「高等学校入学志願学区指定申請」「入学前転学」等

学びの場の変更にかかせない「段階的な検討」とは

「文字を読んだり書いたりすることが難しい」「授業中に離席が頻繁に見られる」など、学習上または生活上の困難が見られる児童生徒に対して、学びの場の変更を検討する際、「現在の学びの場でどのような支援を実施し、その有効性はどうか」という、支援の結果を踏まえた、校内委員会の丁寧な検討が必要です。具体的には、右のフローチャートに示した、ステップ1~5までの段階があります。まずは、ステップ1に取り組むことが大切です。学校全体で共通理解を図り、共通実践していきましょう。二次元コードから、学びの場の変更に係る「段階的な検討のプロセス」の手引が参照できます。御活用ください。



「体力アップ!チャレンジかごしま」前期の取組状況

仲間と楽しく協力し合いながら記録に挑戦する「体力アップ!チャレンジかごしま」の前期の記録申請が終了しました。この「体力アップ!チャレンジかごしま」の実施種目は小学校7種目、中学校5種目あり、学校や児童生徒の実態に応じて種目を選択して取り組むことができます。

令和6年度(前期)の大島地区の取組状況は小・中学校ともに昨年度の記録を上回り、小学校91.4%、中学校73.3%でした。仲間と楽しく協力し合いながら記録に挑戦することで、体力の向上が図られるとともに、学級の絆をより深めることができます。そのため、後期は取り組む学校が更に増えることを期待しています。



<結果> 前期県10位以内にランキングした大島地区の学校数 小学校30校, 中学校10校

瀬戸内町の文化財等 ~油井の豊年踊り~

瀬戸内町の油井〔ゆい〕集落には、旧暦8月15日に披露される県指定無形民俗文化財「油井の豊年踊り」が伝承されています。この芸能の特徴は、田んぼの泥で作った土台に紙を貼り重ねて作った紙面が登場すること。微笑みをたたえた表情の紙面が、多彩に、ときにユーモラスに観客をひきつけます。演目には、長い綱を切断する演目「綱切り」、パントマイムで豊作の稲を刈る様子を表現した演目「稲刈り」などがあります。秋晴れの瀬戸内海峡沿いのドライブを兼ねて、ぜひ一度は見学に足を運んでみてください。



【油井の豊年踊り】
瀬戸内町立郷土館提供写真

【タイトル横の写真】 鮮やかな水色の体に、長いくちばしをもつ「カワセミ」(知名町教育委員会提供)